

## 令和3年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

「自主・自律」・「文武両道」で実践を重ね、人生を主体的に切り拓き社会に貢献することができる生徒を育成する。

- 1 総合力のある教育指導（授業、特別活動、部活動、生活習慣・規範力の醸成）ができる学校
- 2 生徒一人ひとりへのきめ細かな指導を行い、学力と進路の保障ができる学校
- 3 高い志と夢・グローバルな視野を持つ生徒を地域とともに育むことができる学校

## 2 中期的目標

- 1 教員・生徒がともに真摯に学ぶ姿勢を迫及し、授業力向上を図るとともに生徒一人ひとりに寄り添い、生徒の思考力・判断力・表現力を育成する。
  - (1) 教科指導力の向上を図り、ICT活用を含め三島スタンダードに沿った学びの深化を推進する。
  - (2) 基礎学力の定着を図り、学力向上に向けた取組を推進する。
  - (3) 主体的に学ぶ意欲・態度を育成し、家庭での自学・自習を推進する。  
※授業評価における生徒満足度・・・肯定的評価 80%以上を維持する（H30:77%、R1:77%、R2:82%）
- 2 自らの進路実現に向けて粘り強く努力し続けることにより、社会の変化に柔軟に対応し、グローバル社会を牽引できる生徒を育成する。
  - (1) 広い視野で自らの生き方を考え、学習意欲が向上するキャリア教育を推進する。
  - (2) 自学・自習を推進するとともに、個別指導・講習の充実を推進する。
  - (3) 進路情報の共有・保護者への情報提供により、生徒の希望適性に応じた進路実現を支援する。  
※国公立大学合格者数・・・現役合格者数；国公立大学 15%以上（H30:55人(14%)、R1:57人(16%)、R2:52人(15%)）  
※センター試験受験者数・・・在籍者数の 80%以上（H30:82%、R1:77%、R2:79%）
- 3 体験的な活動をはじめ、あらゆる教育活動を通じて互いの違いを認め合い、協力・切磋琢磨する中で豊かな人間力を育成する。
  - (1) 部活動の充実を図るとともに、勉学との両立を推進する。
  - (2) 体育祭・文化祭・芸術祭・修学旅行をはじめとする学校行事の活性化を推進する。
  - (3) 人権教育・国際理解教育・ボランティア活動・読書活動・地域交流活動等を通じて、地球市民としての公民意識や規範意識を醸成する取組を推進する。
  - (4) 教育相談機能の充実を図るとともに、自らを律して他者を思いやる心を醸成する取組を推進する。  
※部活動加入率・・・90%以上（H30:91%、R1:93%、R2:98%）  
※国際理解教育における生徒満足度・・・肯定的評価 70%以上（H30:78%、R1:79%、R2:70%）
- 4 地域・保護者から信頼される安全で安心な学校づくりを「チーム三島」で推進する。
  - (1) 「学び続ける」教職員を育成・支援するために、組織的・継続的な取組を推進する。
  - (2) 教職員における危機管理力の向上及び感染症対策の取組を推進する。
  - (3) 広報活動を引き続き充実するとともに、PTA・後援会・同窓会・地域等との連携を一層推進する。  
※新学習指導要領を踏まえた各科目の研究・観点別評価の試行を行う。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和年月実施分]	学校運営協議会からの意見 (R3)

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 生徒の思考力・判断力・表現力の育成	(1)教科指導力の向上 (2)基礎学力の定着 (3)家庭学習習慣の定着	(1) ア 外部授業公開・校内授業公開を2回実施する。 イ 観点別評価を含む校内外の研修を踏まえ、教科ごとの教育活動報告会を実施する。 ウ 普通教室のプロジェクターやタブレットなどのICT機器を授業等で効果的に活用する。 (2) ア 総合基礎(昼学)PTを核として、科目内容の充実・精選を図る。 (3) ア 生徒の学習の参考となる「三島スタンダード」の充実を図り、家庭における学習習慣を定着させる。	(1) アイ・授業見学を相互の教科指導に反映するとともに、観点別評価の報告会を2回実施する イ・生徒の授業満足度における肯定的評価 80%以上を維持 ：学校教育自己診断;生徒 (R2:80%) ウ・教員のICT活用における肯定的評価 75%以上を維持 ：学校教育自己診断;教員 (R2:79%) (2) ア・総合基礎の生徒満足度における肯定的評価 70%以上 ：朝学アンケート;生徒 (R2:73%) (3) ア・生徒の家庭学習内容・時間満足度における肯定的評価 50%以上 ：学校教育自己診断;生徒 (R2:45%)	
2 グローバル社会をリードできる生徒の育成	(1)キャリア教育の充実 (2)個別指導・講習の充実 (3)進路情報の共有・活用	(1) ア キャリア指導計画に基づき、広い視野で学問・職業を選択できるよう生徒の進路実現を支援する。 イ 関西大学・大教大との連携活動を進める。 (2) ア 各教科の講習を実施するとともに、自習室を充実させ自学自習の取組を全学年で進める。 イ 英語4技能を高める授業を進めるとともに、英語検定等の資格取得を進める。 (3) ア 進路分析の情報を指導に反映させるとともに、生徒の進路希望に応じた指導を行う。 イ 大学入試の情報を的確に把握するとともに、生徒・保護者にわかりやすく情報を提供する。	(1) ア・生徒の進路関連項目における肯定的評価 85%以上を維持 ：学校教育自己診断 (R2:89%) イ・関西大学・大阪教育大学との連携を継続する (2) ア・長期休業中・早朝等に講習を実施する イ・英語検定資格取得者の増加 ：学校把握分 (R2:19人) (3) ア・国公立大学現役合格率 15%以上を維持 ：進路入試結果報告 (R2:52人) イ・保護者の進路関連項目における肯定的評価 70%以上を維持 ：学校教育自己診断;保護者 (R2:73%)	
3 豊かな人間力の育成	(1)部活動の充実 (2)学校行事の活性化 (3)国際理解教育・地域連携の充実 (4)公民意識の醸成	(1) ア 部活動と勉強を文武両道で両立させ、達成感や自尊感情を育む。 (2) ア 体育祭・文化祭・芸術祭等を通じて、自主自律の精神を涵養する。 イ 芸術祭や修学旅行などの学校行事や図書館活動を通じて、文化や伝統を創造する自覚を持たせる。 (3) ア 夏期・春期イングリッシュキャンプ・学校交流などの国際交流活動を実施する。 イ 地元小中学校・支援学校との地域交流活動や高槻市内の関係機関との連携を推進する。 (4) ア 生徒会が中心となり、あいさつ・時間遵守・交通マナー・奉仕活動の大切さを浸透させる。	(1) ア・生徒の部活動等と勉強の両立における肯定的評価 60%以上を維持：学校教育自己診断;生徒 (R2:60%) ア・部活動加入率 90%以上を維持 ：部活動調査 (R2:1年生 98%) (2) アイ・生徒の学校行事への取組みにおける肯定的評価 80%以上を維持：学校教育自己診断;生徒 (R2:87%) (3) ア・生徒の国際理解における肯定的評価 70%以上を維持 ：学校教育自己診断;生徒 (R2:70%) イ・地元との部活動交流を複数回実施する (4) ア・生徒のルール遵守における肯定的評価 70%以上を維持 ：学校教育自己診断;生徒 (R2:74%) イ・遅刻者数の減少：遅刻者統計 (R2:660人)	
4 安全で安心な学校づくり	(1)人材育成の推進 (2)人権教育・教育相談機能の充実 (3)広報活動の充実	(1) ア 教員の専門的知識を研鑽する今日的課題の校内研修を実施するとともに、経験の少ない教員への教科・分掌での役割を明確にする。 イ 教員の働き方改革を推進するため、指導等の改善や会議等の精選、校時・内規の見直し等、職場環境改善を進める。 (2) ア カウンセリングマインドを取り入れた教育相談を組織的に行うとともに、人権教育を再構築する。 (3) ア 生徒の活動や地域連携活動等の教育活動をHPで定期的に公開するとともに、効率的な中学校訪問・学校説明会を実施する。 イ 創立50周年事業で整備した機器・設備を効果的に活用するとともに、PTA・後援会・同窓会・生徒・教職員オール三島で連携した取組を進める。	(1) ア・教員の校内研修関連項目の肯定的評価の向上 ：学校教育自己診断;教員 (R2:55%) ア・経験の少ない教員に対する講座を学期毎に実施するとともに育成の観点から若手教員の分掌間異動を進める イ・会議時間・朝の電話対応時間を10%削減する(R2:職員会議60分1月時点) (2) ア・生徒の教育相談関連項目の肯定的評価の向上 ：学校教育自己診断;生徒 (R2:60%) (3) ア・HPの生徒・保護者連絡を充実し情報を毎月更新する ア・本校及び地域開催の学校説明会参加者数 1500人以上 ：リーフレット配布数 (R2:1584枚) イ・環境整備した機器・設備が効果的に活用できるよう各種説明会を実施する	